令和７年度　自己振返り反省

等々力保育園

令和７年度は次の５段で自己の振返りを行った。

S：大変よくできている 150%以上
A：よくできている　110%～140%
B：できている（ほぼできている）100%～70%
C：あまりできていない　60%～50%
D：できていない　50%以下

今回の振返りでも殆どの職員は「B：できている」をつけており、**総合評価としても全職員が「B：できている」だった。**ただ今年度より新規の職員が２名入ったため、その２名は自己の振返りと上席の評価に差があった。

① 等々力緑地や多摩川といった自然環境を生かしながら･･･
・遊びや生活の中で「感じる力」「考える力」を伸ばし、「表現できる」ようになる。
・遊びや生活の中で「元気な体」を育み体力を付ける。

② 保護者と連携して育児の喜びと苦労をともにする。

上記当園の保育目標①は周辺の自然環境を生かしながら十分に行っていると思われる。
ただ先に述べたように新しく入った職員が２名いたのでこの部分を本当に理解するのは難しいようだ。各自振返りをしてもらい、等々力の環境を活かした保育を目指してもらう。
例えば緑地に行き、小枝や葉っぱ石などで顔や建物など作りたいものを作る時間を設けたり、画用紙やクレヨンを持っていき木々の写生を行ったり、雨の中にﾚｲﾝｺｰﾄで出かけて虫たちや植物の様子を観察したりしていた。
また「考える力」をつけるため、担任達は日頃より子ども達に聞いたり、またｸﾗｽで話し合いをしたりして、「何をするか」「どうしたら良いか」を決めていた。様々な内容を担任たちは子ども達に投げかけていた。時間のかかることだが良くできていたと思う。
これからも余裕のある保育を心がけ、子ども達が自分たちで考えられる時間を確保していく。

② の目標は保護者と連携して子育ての苦楽をともに感じることができたのではないかと思う。
当園では保護者との連携をとても大切にしており、保護者も積極的に保育に目を向けてくれていた。ただ各家庭により子どもへの考え、接し方が違うので、個々の課題に対し対応が難しかったようだ。例えばお知らせを確認してもらえない、直接伝えても守ってもらえないなど、どこまで担任がフォローすれば良いのか迷うことが多い。やりすぎても就学した時に子どもが困ることもあり、振返りをしても答えは出ない。
今後も保護者との連携は重要と考えるので、保育者は目の前の子どもを見るだけでなく、その子達の背景にある家庭（保護者）の状況も把握していくことはとても重要だと考える。

以上